第１回中津川市リニアのまちづくり推進本部

第１回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会合同会議議事録

平成２４年６月１日（金）

【司会】　定刻の少し前ではございますけれども、皆さんお揃いのようでございますので、ただいまより平成２４年度第１回中津川市リニアのまちづくり推進本部及びリニアのまちづくりビジョン策定委員会の合同会議を開会させていただきます。本日は、皆様方におかれましては、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。中津川市ではクールビズを５月終わりから導入しておりまして、その関係でノーネクタイで出席をさせていただいておりますので、ご了承をお願いいたします。本日は、中津川市リニアのまちづくり推進本部及び中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を設置させていただきまして、初めての会合でございますので、状況報告を含めまして合同の開催とさせていただきました。次回以降につきましては後ほど説明をさせていただきますけれども、策定委員会としてのスケジュールに沿って開催をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。それでは、初めに、中津川市リニアのまちづくり推進本部の青山本部長からご挨拶を申し上げます。本部長、よろしくお願いいたします。

【本部長】　皆様、こんにちは。今、司会のほうから案内がございましたように、第１回目のリニアのまちづくり推進本部、また、ビジョン策定委員会ということで、第１回目でございまして、合同という形で開催をさせていただきました。皆様大変お忙しい中、ご出席を賜りまして本当にありがとうございます。素直な気持ちとしましては、ようやくこの委員会が開催できるに至ったなという気持ちでいっぱいでございます。また本日、この開催に当たりまして、それぞれの委員の皆さん、顧問の皆さん、オブザーバーとしてアドバイザーをお引き受けいただきましたことを、心よりお礼を申し上げます。また、今回のビジョン策定委員長を引き受けていただきました竹内先生、そして、高木教授、三井准教授に就任していただくことにもなりました。感謝を申し上げますとともに、これから専門的な見地からご指導をいただけるということ大変心強く思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。さて、リニアの中央新幹線は、大変厳しい時代の環境の中で、中津川市、また、近隣の自治体にとりましても千載一遇のチャンスであります。このチャンスを、何としても波及効果として活かしていくことが、我々の使命でもあると考えております。リニアのルートや駅の詳細な位置が決まれば、直ちにアクセス道路、駅周辺の整備と、具体的な計画を策定していかなければなりませんが、それまでに根幹となる市のビジョン、市民の英知を集結して組み立てていきたいと考えております。当市に計画されているリニア駅は、岐阜県の新たな玄関口、そして、県の、とりわけ経済に関わりま

す大きな役割を担ってくれるものと確信もしておりますが、そうした視点と市の持続的な発展の視点をもって、今後、岐阜県のリニア活用戦略の方針との整合性を図りながら、近隣市町村の意向をしっかりと踏まえ、ビジョンを作成していただきたいと思います。策定委員会は、幹事会、地域委員会、また、女性・若者委員会等を設置して、さまざまな側面から、さまざまな立場から議論をいただき、策定にあたっては市が持っている現在の地域の資源、これをさらに磨きをかけた中で、中津川市の魅力も発信をしてまいりたいと、それが非常に大切な要素にもなっておると考えております。その辺をどうか十二分に組み合わせていただきまして、これからの議論をいただきたいと思っております。今後は推進本部、また、策定委員会とは別々に会議は開催される予定でございますけれども、委員の皆様をはじめ、顧問、そして、オブザーバー、アドバイザーの方々には、それぞれのお立場でこれからもしっかりとご助言をいただきたいと、そのように考えておりますので、どうかよろしくお願いをいたします。お願いばかりで申しわけございませんけれども、何とかこのリニア、有効に十二分に活用したい、そういったこれからの会議の展開ができればと思います。どうかよろしくお願いを申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。本日は大変ありがとうございます。

【司会】　　どうもありがとうございました。続きまして、中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会の委員長をお引き受けいただきました竹内委員長さんより、ご挨拶をちょうだいいたしたいと存じます。委員長、お願いいたします。

【委員長】　　竹内でございます。私、リニア中央新幹線の問題につきましては、たびたび中津川市にもお邪魔して、講演などをさせていただいたところでございますけれども、私としても、こういう具体的に動き出した会議の委員、そして委員長を務めさせていただくのは初めてでございまして、今日は私としても感慨ひとしおでございます。私が中央新幹線の問題に取り組みましたのは、正確には忘れてしまったのですが、二十年前だと思います。東京から大阪までの沿線都府県と政令都市が十幾つあったと思うんですけれども、そこの沿線から各方面の大学人を集めまして、中央新幹線沿線学者会議というのを立ち上げまして、そこでいろいろ勉強をしてきたわけでございます。当初は国の新幹線の整備計画にのっとって、今、いろいろあちこちの地方でつくっておりますけれども、ああいう整備新幹線計画の優先順位を変えていただいて、この中央新幹線を整備していく必要があると、こういう議論をやっておりました。中央新幹線の必要性とか国の制度をどういうふうに変えたらいいかとか、それから、財源はどこで調達したらいいかというような話をしておりました。なお、当初はリニア新幹線と言っておりませんでした。リニア技術というのが使えるものかどうかわからなかったわけでございまして、私どもの会合も中央新幹線沿線学者会議ということでやってまいりました。けれども、１０年１５年とやってくるうちに、リニアモーターカー、超電導型磁気浮上式と申しますが、この開発は順調に進みまして、もう実用することは十分可能であるということになりました。国の鉄道実用技術評価委員会もそれを認めることになりました。これは順調に進んできたわけでございますが、国

の制度のほうが一向に改革が進みませんで、ついにＪＲ東海はしびれをきらして、自分のところの金でつくると。国の資金的援助は要らないということで、それが東京から名古屋までつくるにつけてはという条件はついておりますけれども、ともかく自力でつくるということで、今回、急遽動き出すことになったわけでございます。それにはいろいろな事情もございますけれども、私どもの沿線学者会議にとっては、ＪＲ東海から期待されていた当初の一番大きな役割を果たすのに失敗したわけでございます。ただ、当初の目的は失敗いたしましたけれども、私どもはその間、ずっと勉強してまいりましたので、制度的な面も、それから技術的な面も、かなりリニア新幹線に関しては知識がございます。そして、地元地域とのパイプ役というのが、今度は自分たちの役割だと思っていた矢先でございました。岐阜県のほうの研究会でも委員を務めさせていただいておりますけれども、このたび中津川に駅ができるということが決まりまして、それにつけては中津川市のほうで、これは地域に大きな影響を与えるものであるから、改めて地域づくりそのものを見直しながら、最大限に新幹線効果を発揮できるような方策を考えたいということで、本会議、あるいは推進本部を立ち上げられたわけでございます。私も、今まで培ってまいりました知識ですとか考え方を皆さんにご披露しつつ、この会議の委員長を務めさせていただきたいと思っております。私といたしましては、実は到達点といいますか、やっとここまで来たかと。こういう委員会が動き出したのであれば、私の仕事は終わったようなものだと思っているのでございますけれども、それでは皆さんに失礼でございますので、今申しましたように、今まで培ってきた知識、それから考え方を、できるだけ１００％皆様にお伝えしながら、この委員会のとりまとめに努めてまいりたいと思いますので、どうか皆さん、ご協力をよろしくお願いいたします。

【司会】　　どうもありがとうございました。続きまして、中津川市リニアのまちづくり推進本部の顧問をお引き受けいただきました方々を代表して、早川県議会議員様から、ご挨拶をちょうだいいたしたいと存じます。早川県議会議員様、よろしくお願いいたします。

【顧問】　　皆様、こんにちは。今日は大変ご苦労さまでございます。事前に挨拶があることを言っておいていただければ、もっと考えておいたのでございますが。今、委員長からお話がございました。そうした形の中で、今日やっと中津川市、こうした会を開けることができたわけでございますけれども、ただ、あまり時間はございません。そうした中で、このまちづくりビジョン策定委員会の中で、どういうふうな意見が出てくるだろうかと。例えばリニアにかこつけて、我田引水的なそれぞれの地域でということでは、これはないだろうと思いますし、やはり全体的な地域を見て、どういう形がこれからの推進に一番いいのだろうかと、やはりそこから考えていかなきゃいけない。これは竹内先生、策定委員長でございますから、そういう形の中でご示唆いただければそうした方向に向かっていくと思いますし、一番のこれからのリニアについて言えるのは、中津川市であっても中津川市でないということになってきたわけでございます。要するに、中津川市１市だけでこれを進めるということは到

底できないわけでございまして、今日も県庁のほうから都市建築部の公共交通課、リニアの担当の方が今日お見えになります。そういうことで、岐阜県といかにして密接な連携をとっていくかということが大事だと思います。それで、１つには、ＪＲ東海が言っているのは、地元と言っております。これは決して中津川市、恵那市だけでの問題ではなく、岐阜県全体を地元と言っておるわけでございますので、ぜひ県と市と密接な関係を保っていただきながら、立派な市ができていくというふうに、そうした形になっていけば今回も大成功ではないだろうかと、そう思うわけでございます。いずれにしましても、今日は初めでございます。これからは皆様方の意見を拝聴しながら、私も議員連盟の会長として、県のほうといろいろな形の中で密接な関係をこれからも保っていきたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願いを申し上げまして、ご挨拶に代えます。ありがとうございました。

【司会】　どうもありがとうございました。本日は初の会合でございますので、委員、顧問、オブザーバー、及びアドバイザーの皆様方から、自己紹介を兼ねてご挨拶をちょうだいしたいと存じます。

（各委員挨拶）

【司会】　どうもありがとうございました。委嘱書の交付でございますが、誠に失礼とは存じますけれども、本日の資料とともに事前に配付させていただいておりますので、よろしくお願いをいたします。次に、資料の確認でございますけれども、こちらの黄色いほうの綴、こちらの一番上に資料一覧表というのが載っております。それに基づいて資料を配付させていただいております。こちらの黄色いほうのファイルには、議事次第、配席図、名簿、資料１－１から資料４、そして、説明会の報道発表の資料がございます。もう一冊のほうの青色のファイルでございますけれども、こちらには参考資料の１から８まで資料が綴じてございます。またファイルとは別に、先ほどの委嘱書と次回の日程調整表が入っております。いま一度ご確認をいただければありがたいです。それでは、本策定委員会につきまして、資料及び議事録をすべて公開することとさせていただきたいと考えております。ご了承をいただければ幸いと存じます。それでは、これより議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、策定委員会の委員長であります竹内委員長にお願いしてございます。竹内委員長さん、よろしくお願いいたします。

【委員長】　それでは、議事の進行は座って説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。では、議事に入らせていただきます。今日の議題でございますけれども、１から４までございます。その後、その他というのがございます。その１番目、運営方法についてというのから入ってまいります。では、運営方法について、資料１－１、１－２を用いて、事務局から説明していただくことにいたします。

【事務局】　本日は大変お忙しい中、ご出席くださいましてまことにありがとうございます。それ

では、大変失礼とは存じますが、着座にてご説明させていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。それでは、資料１－１をご覧ください。推進本部につきましては、大所高所から円滑な事業推進を図る意思決定の最高機関の位置付けにおきまして、本ビジョンの策定のみならず、具体な計画策定、計画の進捗状況、さらには開業以降の事業評価、計画の見直し等についてもご議論いただきたいと考えております。また、策定委員会につきましては、ルート、駅の詳細位置が公表される来年秋を睨んだ形で、概ね２年間の設置が必要と考えています。そして、下部組織として実務協議を行う幹事会を設け、本会との連絡調整を図ってまいりたいと考えております。また、幅広く地域のご意見をビジョンに反映していくため、地域の協議会ごとでご議論をしていただき、その代表者で構成する地域委員会において意見を集約、併せて地域間の連絡調整、策定委員会における議論の地域へのフィードバック等を担っていきたいと考えています。また、女性・若者委員会を設置し、女性若者ならではの視点で、ワークショップやフリーディスカッション等、気軽に意見を出し合える形で議論していただけたらと考えております。次に、資料１－２をお願いいたします。項目１番目の推進本部設置要項でございますが、委員等の任期を２年とすること、委員のほかに、顧問、オブザーバーにご参画いただくことなどがポイントでございます。次に、項目２の策定委員会設置要項でございますが、委員会の設置期間及び委員の任期はビジョン策定完了までとすること、幹事会を設置すること、委員のほかにアドバイザー、オブザーバーにご参画いただくことなどでございます。次に、項目３でございますが、委員会の会議は公開とし、次の①、②に掲げる場合には非公開にできるものとするものでございます。当委員会におきましては、非公開が必要となる案件はまだないものと考えております。次に、傍聴人の定員は２０人程度とすることといたしますが、傍聴のご希望に柔軟に対応したいと考えております。併せて市ホームページに会議資料等を公開し、市民の皆様への情報提供に努めてまいりたいと考えております。簡単ではございますが、以上でございます。

【委員長】　　ありがとうございました。以上の説明につきまして、何かご質問がございますでしょうか。あるいは、ご意見がございましたら、手を挙げて発言をいただきたいと思います。この点は、どうやらお手も挙がらないようでございますので、今説明がありましたとおり、原案のとおり承認することでよろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

【委員長】　　それでは、原案のとおり承認することにしたいと思います。それでは、議事２に進みます。リニア中央新幹線計画に対する取り組み状況についてでございます。資料２を用いて、事務局から説明することにいたします。よろしくお願いいたします。

【事務局】　　それでは、ご説明申し上げます。資料２－１をお願いいたします。リニア中央新幹線計画に対する取り組み状況を主体別に時系列で整理したものでございます。まず、中央の岐阜県の欄

をご覧いただきたいと思います。岐阜県におかれましては、１９７８年１月に沿線都府県に先駆けて期成同盟会を設立され、国やＪＲ東海への要望活動、沿線都府県との連携等中央新幹線の建設促進、停車駅誘致等について、強力なリーダーシップにより推進されております。リニア中央新幹線地域づくり研究会の設置、リニア基本戦略の策定、さらには昨年９月にリニア中央新幹線活用戦略研究会を設置され、２０１３年度末といわれるリニア着工を睨んだリニア活用戦略の策定を進められております。経済界におかれましても、そのお隣にありますけれども、１９９１年に東濃東部、飛騨、木曽圏域の商工会議所、商工会が会員となられまして東濃東部リニア停車駅誘致期成同盟会が設立され、試乗会の開催、リニア近隣経済団体懇談会等、強力かつ積極的な活動を展開されております。また、２０１０年３月には、東濃５市より可児市の経済界が中心となられ、リニア中央新幹線岐阜東濃駅設置促進協議会を設置され、昨年９月にはリニア中央新幹線を活かした地域活性化協議会へと名称変更され、新たな視点で活動を進めておられます。詳細は後ほどご説明があると存じますので、よろしくお願いいたしたいと思います。次に、市議会、市民団体を含めて市の取り組みについてご説明申し上げます。県同盟会設置に足並みをそろえる形で、１９７８年５月に市議会に特別委員会が設置され、中央新幹線建設促進等について調査研究を進めてこられました。２０００年１０月には、区長会連合会を母体に「市民の会」が設置され、親子試乗会の開催、ＰＲ事業等の推進をしていただいておるところでございます。市では２００９年にまちづくり課を設置、広域まちづくりに関する調査研究など、中央新幹線計画の具体化を睨んだ取り組みを進めてまいりました。そして、昨年１０月には、庁内に推進本部を設置し、全庁体制を構築し、本年４月には中央新幹線推進局を設置し、現在に至っておるところでございます。次に、右側の青い囲みで囲んであるところをご覧ください。昨年の６月７日にＪＲ東海が公表しました環境影響評価計画段階配慮書の中で、岐阜県中間駅の概略位置が中津川地点に選定され、併せて工場を含む車両基地の計画が明らかになりました。次に、その下の②をご覧ください。これは昨年１１月にＪＲ東海が中間駅建設費の全額自社負担を表明した際に示されました沿線自治体に対する考え方でございます。用地取得の斡旋をはじめとする行政サイドからの工事促進に関わる協力等、地域行政としての自治体本来の役割を果たすこと、また、既存駅の改修、連絡設備の整備については計画しないことなどが盛り込まれております。次に、③をご覧ください。これは県活用戦略研究会の第３回基盤整備部会で整理された駅位置に関する整理でございます。リニアを活用した戦略づくりを検討していくうえで駅位置が極めて重要であり、ＪＲ東海による駅位置の絞り込み作業が本格化する前に申し入れを行う必要があるとの認識からとりまとめられたものでございます。リニア駅は在来線との乗継利便性を考慮し、在来線既存駅・美乃坂本駅に併設、もしくは近接して設置すべきとの考え方が確認されました。そして、県同盟会総会の決議を経て、４月１８日にＪＲ東海山田社長に対し、要望が行われたところでございます。資料２－１の説明は以上でございます。続きまして、参考資料についてご説明をさせていただきたいと思います。水色のファイルをご覧いただきたいと存じます。まず、資料１のリニア中央新幹線の開業までの流れでございます。この資料につきまし

ては、岐阜県さんからご提供をいただいたものでございます。基本計画から開業までの流れが整理されております。次に、資料２の中央新幹線小委員会答申でございます。中央新幹線整備の意義、走行方式、ルート、営業主体及び建設主体、整備計画についての見解、及び審議過程で浮上した重要事項についての付帯意見が示されています。ビジョン策定に当たっての重要な視点が１２ページに載ってございますので、こちらの⑨のところをご覧いただきたいと存じます。⑨のところで、戦略的な地域ビジョンづくりの重要性が示されております。上から３行目以下の部分でございますけれども、中央新幹線の沿線地域は、中央新幹線が開業すれば地域が活性化するという発想に立つのではなく、中央新幹線の開業を見据え､旅客及び時代のニーズを踏まえ､地域特性を活かした産業や観光の振興など、地域独自の魅力を発揮する戦略的な地域づくりが重要であるとされています。次に、資料３でございます。これは中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価方法書（岐阜県）のあらましでございます。次に、資料４は、岐阜県リニア中央新幹線地域づくり研究会で、昨年策定されましたリニア基本戦略でございます。１０ページにそのポイントが整理されておりますのでご覧ください。まず、目指す姿として、地域外から人を呼び込み、交流人口を増やし、地域の消費を拡大、そして、他の地域に産品を売り、所得を稼ぎ出すと定義され、戦略としては、リニアを活かした「観光交流人口の拡大」「新たな住まい方の実現」「産業活性化」の三本柱に、それら地域づくりを支える基盤づくりという形で整理されてございます。次に、資料５－１でございます。これは平成２２年度広域のまちづくりに関する調査研究報告書でございます。資料５－２はダイジェスト版でございますので、そちらをご覧いただければと思います。１ページ目のところでございますけれども、このまとめの整理がしてございます。まず、リニア開業により想定される効果、中長期的な時代潮流の展望を整理、それらを踏まえた中津川市の広域的発展のシナリオ、そして、総合的なまちづくりの展開のイメージ、今後の取り組みの進め方というものを整理したものでございます。４ページ以降になりますけれども、首都圏等との時間距離短縮によるプラス的要素だけでなく、懸念されるマイナス的要素も踏まえたうえで、積極的な取り組みを行っていくことが必要であること。また、交流の促進と定住人口の維持といった２つの視点が必要であることなどを整理いたしました。本編のほうでは分野ごとに、将来イメージ、求められる施策も整理してございます。本ビジョン策定にあたっての叩き台としてご活用いただければと考えております。次に、資料６－１は平成２３年度広域のまちづくりに関する調査研究報告書でございます。資料６－２がダイジェスト版でございますので、こちらをご覧いただきたいと存じます。この報告書は、地域の特性や地域資源等、当市の立ち位置がどこにあるのか、客観的に評価、市の強みと弱みを洗い出し、リニアの波及効果のプラスもマイナス面も併せて、まちづくりにどう活かしていくかということを整理するためとりまとめたものでございます。１ページに調査フローと分析対象都市の図を載せてございます。社会経済データを用いまして、飯田や甲府といった中間駅設置都市と比較をしております。産業、観光、地場産品といった項目につきましては、通勤・通学５％圏を含めました都市圏同士で比較し、ちなみに、恵那市、南木曽町は１０％圏でございまして、大桑村が５％

圏ということでございます。また、相模原市は首都圏の一角に位置し、都市の性格も当市と著しく異なることから対象から外しております。個別の説明は時間の関係上省略させていただきますけれども、例えば４ページの農林業、それから５ページの工業、こういったところでは中津川市の優勢というのが伺える結果が出ております。また、６ページの商業のところでございますけれども、商品販売額で比較いたしますと、飯田市、甲府市に水をあけられた形になっておりますけれども、駅前商店街の販売額を比較しますと飯田市を大きく上回り、人口規模が遥かに大きな甲府市とほぼ変わらないという結果が出ております。こうした分析を基に、市の持つ強みをどう伸ばし、弱みをどう補っていくかということを議論していきたいと考えております。１４ページをご覧ください。このまとめは、今申し上げました１３ページまでの整理の流れとは全く別のものでございまして、駅の機能、駅とのアクセス、車両基地とのアクセスといった基盤整備や、今後のまちづくりに向けた視点をとりまとめたものでございます。ここでの整理を、後でご説明させていただきますビジョン策定にあたっての論点と視点等の案に盛り込んでございます。次に、資料７は、熊本総合車両基地のパンフレットでございます。規模は中津川市にできるものの３分の１程度でございますけれども、車両基地の持つ機能がどのようなものかおわかりいただけると思います。基本的には車両を留置する施設と、それから、リニア版の車検工場といったような工場が設置されるということでございます。次に、資料８でございます。これは広報なかつがわの連載記事でございまして、私ども、市民の皆様にわかりやすくタイムリーな情報提供に努めていきたいと考えてございます。今後も、こういった形でしっかりとやっていきたいと考えておるところでございます。いろんな内容を今までしっかりとお伝えしてきたつもりでございますけれども、やはり広報ということで、なかなか行き届いていないということにつきましては、しっかりと詰めて改善していきたいと考えてございます。簡単ではございますけれども、リニア中央新幹線計画に対する取り組み状況並びに参考資料のご説明は以上でございます。

【委員長】　どうもありがとうございます。かなり膨大な資料を手短に説明していただきますので、ご質問もあろうかと思いますけれども、今の説明に続きまして、経済界のほうで広域的に随分積極的に取り組んできておられます東濃東部リニア停車駅誘致期成同盟会の活動がございます。その会長を務めておられます丸山副本部長さんから、活動についての説明をいただきまして、それも併せて、後で皆さんに質疑応答、議論をしていただきたいと思います。それでは、お願いします。

【副本部長】　それでは、発言の機会をいただきましてありがとうございます。それでは、まず皆さん方に、もうご案内のとおりでございますが、東濃東部リニア停車駅誘致期成同盟会が平成３年６月に設立されて活動を進めてまいりました。これは見開きの次のページのところに、資料２－２に書いてございますので、細かくは申し上げません。ただ、私たちの先輩が始めてこられたこの活動は、県で多岐にわたっておりました。すなわち、飛騨の皆さん方もこの東濃東部期成同盟会に加わっておっていただきます。しかも、南木曽の皆さん方、今日もおいででございますが、皆さん方と一緒に活

動をしてまいったわけであります。その間、見開きの経済界の枠組みの中にそれぞれの活動を進めてまいりました。看板の設置、恵那の皆さん方と共同して、恵那駅、それから恵那の中心部、中津川駅、中津川の中心部、開通は決定しましたので、早期着工をという文字に変えさせていただいております。そうこうしておりましたら、東濃西部の皆さん方が、東濃西部の期成同盟会をつくろうという動きがございました。そのときに、私ども東濃東部、恵那の皆さん方、あるいは南木曽、下呂の皆さん方とも協議申し上げまして、北商工会の皆さん方とも協議しまして、とにかく、東濃駅促進同盟会に移行しようと。ただし、東濃東部期成同盟会は残していこうと、こういうことで今日に至っておるわけであります。浜松の車両工場、これは約３０ヘクタールでございますが、この車両工場を皆さんとともに視察をしてまいりました。この車両工場というのは本当に凄いものでありまして、ただ、よく考えますと、新幹線は１時間に十数本走りますが、２０本近く走りますが、リニアは１時間に４本と聞いておりますので、これだけの広大なものができるのかと思いますが、お聞きするところによりますとリニアの製造工場ができると、こういうことで、ぜひ浜松を見てこいと。それからもう一つは、駅はどんな程度という情報もありまして、三河安城駅と、こういうもので三河安城も視察なんかも行かせました。そういう中で、昨年の６月９日を起点としまして、これから広域的な連携が必要であると、こういうことで、私どもと恵那の商工会議所、北商工会、下呂の商工会の皆さん方と昨年暮れに合同会議を実施いたしました。その後、第２回は、南商工会、南木曽商工会、さらには、それぞれのすべての経済団体と合同して活動していこうと、こういうことで合意をいたしております。今後３回目は、ぜひ、早川先生、あるいは駒田先生、平岩先生を含めた皆さん方もお招きして活動をしてまいりたいと、こういうふうに思っております。今日は恵那市からもおいででございますが、恵那商工会議所の皆さん方にはこういうふうに申し上げております。中津川駅から坂本駅までは６．４キロ、坂本駅から恵那駅は５．２キロで、１．２キロ恵那駅のほうが近いわけであります。これは恵那駅であるということも、恵那の皆さん方にいろいろ時として中津と変わらないように恵那の会議所の皆さん方とも連携をとっておると、こういう状況でございます。ちょっと具体性に欠ける話で大変申しわけございませんが、以上、とりあえず締めさせていただきます。ありがとうございました。

【委員長】　ありがとうございました。　それでは、今ご説明いただきました２点をあわせまして、どこからでも結構でございますけれども、何かご質問ございましたらお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

【副本部長】　（会場内の白板に掲示しているリニアカレンダーについて）ちょっと白板をご覧いただきたいと思いますが、これもあまりフライングしますと、恵那の方たちからご批判を浴びるわけでございますが、昨日でき上がりまして、こういう、２０２７年までのリニアカレンダーといいますか、ポスターといいますか、これをつくりました。それで、（リニアカレンダー下段名称部分について）中津川商工会議所、あえてあそこの左に寄っておりますのは、各お店の名前も入るように、あるいは

各会社の名前も入るようにしております。また、恵那の、それぞれの、下呂の皆さん方にはあれを消すということも、心配りに欠くことのない支度をしておるということを申し上げておきたいと思います。以上でございます。

【委員長】　　ありがとうございます。いかがでしょうか。何かご質問、あるいはご意見がございましたら。付属資料のほうは大変膨大でございますので、これをお読みいただくのは、ここの場ではとても無理だと思いますが、あらかじめご存じの方、あるいはご覧になった方で何かお気づきの点がありましたら、追加的な発言ありますでしょうか。それでは、今日はご議論いただくこともたくさんございますので、もしご発言がなければ次へ進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、この件は、また次回の会議までにご覧になっていただいて、ご質問があれば、後で聞いていただいてもいいのではないかと思いますので、これで次の議事に移らせていただきます。それでは、議事３でございますが、ビジョン策定にあたっての論点と視点等の整理についてに入ります。これは論点と視点の整理が資料３－１と３－２にしてございますので、まずは事務局から説明をお願いして、それから皆さんにご意見を聞くことにいたします。では、お願いいたします。

【事務局】　　それでは、ご説明申し上げます。資料３－１からお願いいたします。これは、ビジョン策定にあたっては、論点と視点について共通認識を持っていただくことが大切と考え、あくまで叩き台としてご提案申し上げるものでございます。まず、論点につきましては、リニアの波及効果と時代潮流を踏まえた中津川市の持続的発展に向けたまちづくりの方向、そして２番目に、県内市町村、県境を越えた周辺地域との一体的発展を見据えた連携のあり方、３番目でございますけれども、これらまちづくりや連携に向けた取り組みの具体的方策等についてご議論いただけたらということで考えております。議論の切り口といたしまして、観光、地場産品、コンベンションなどによる交流促進と産業振興、住宅、教育、暮らしなどによる定住人口増加の２つの側面から、そして、中心市街地活性化や地域単位の特性を生かした地域づくりといった課題と絡んだ形で整理をしていければと考えております。そして、具体的な取り組みについて、それらを効果的に進めていくため、アクセス道路や駅前等の基盤整備の計画が必要となりますが、ルート、駅、車両基地の詳細位置やそれらの概要は明らかになったときに、具体的な議論にスムーズに移れるよう、機能論のレベルでしっかりと整理しておく必要があると考えております。その組み立てのベースとなる駅位置の想定につきましては、先ほどもご説明申し上げました美乃坂本駅に併設、もしくはできる限り近接する位置とし、また、車両基地については、ＪＲ東海が説明会で回答された５キロ直径圏内の計画という想定が現段階では適当であろうと考えております。こうした想定であれば、最終的な位置がどこになろうとも、この整理が無駄になることはないと考えております。また、各地域の協議会で整理していただきます地域ごとのまちづくりの方向を反映した大まかなゾーニングができればというふうにも考えてございます。それぞれの地域の持ち味とリニアの波及効果をうまく絡めて整理できれば、地域の皆様にとってもわかりやす

いビジョンになるのではないかと考えております。次に、視点につきましては、下のリニア駅設置市として果たすべき役割から捉えた視点と重なりますけれども、まず、上位計画との整合性が大切と考えております。県土及び周辺圏域への一体的発展に向けた広域的視点を持つことで、県下全域の皆様のご理解を得られるような整理をし、また、市民の皆様に未来に希望を持っていただけるよう市の持続的発展及び市民の暮らしの向上に主眼を置いた視点や、地域単位及び地域のつながりの視点を大切にしていきたいと考えております。それから、リニア駅と車両基地とでは見込まれる波及効果の種類が異なりますので、それぞれの機能の特性から捉えた視点を持つことが大切ではないかと考えてございます。そして、最後は身の丈の視点でございます。当市のみならず、国・地方とも厳しい財政状況にございます。リニア計画といった大規模プロジェクトにより市の財政が苦しくなるのではとのご心配も伺っているところでございます。身の丈という視点を持つことが、期待需要に流されず、堅実なまちづくりにつながるものと考えており、社会情勢や需要動向を踏まえ、柔軟かつ段階的に計画を推進していけるような、そういったまとめをしてまいりたいと考えております。項目３は、ビジョンのアウトプットイメージでございます。ただいま申し上げました内容を項目立てするとこのような形になるというものでございます。次に、資料３－２をお願いいたします。この資料は資料３－１をブレイクダウンしたものでございますので、詳細なご説明は省略させていただきますが、１点補足させていただきたいところがございます。中ほどのステップ３の基本事項の２つ目の項目でございます。癒しの非日常空間の創造でございます。首都圏からひかり型であれば３０分で到達できる中津川のまちが、首都圏と同じように高層ビルが立ち並ぶような無機質なまちになってしまってはいけないという考え方でございます。特に新駅周辺は岐阜県の東の玄関口となるわけでございますので、多くのお客様が当駅で降りたくなるような非日常の雰囲気というものを創っていくことが大切というのが趣旨でございます。簡単ではございますが、以上で終わります。

【委員長】　　どうもありがとうございました。これはひとつじっくり議論いただきたいと思いますが、今説明がございましたように、資料３－１を見ながらご発言いただければいいと思うんですが、これは質問があればご質問をお受けいたしますが、質問だけではなくて、こういう議論の進め方について、何かご意見があれば、ある方がいらっしゃいましたらご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。ちょっとお手を挙げて合図していただければと思いますが。

【委員等】　　発言の趣旨からちょっと外れるかもしれませんが、まず冒頭、今回、推進本部をつくっていただきました。このことについてまずお礼を申し上げたいと、こんなふうに思っております。と言いますのも、実は私ども、北商工会の役員さんと、それから、福岡地域のまちづくり協議会の役員さん、また、蛭川の振興会の役員の皆さん、それから、各それぞれの総合事務所の皆さんと、北陸新幹線の白山の車両基地をこの２月に視察をさせていただきました。そのときに大変感じるところが、報告がありましたので、そのことを少しご説明申し上げたいと、こんなふうに思っています。今回の

資料７の４ページのところに、下段のほうに、白山総合車両基地ということで建設中の地図が載ってございます。ここへ、この２月に、地域にこの車両基地はどんなふうに影響するだろうというようなことを見せていただきに行ってきました。北陸新幹線は平成２７年操業ということで、間もなく操業になろうというところを行ってきました。その日、そこの担当していただきました商工団体の役員の皆さんが、その白山市というのは中津川市と同じように、合併してまだ７年、８年という状況の中で、この車両基地ができるということに対して、合併前からの懸案ということで、特別な手だてはしなかったというところで、合併してここ二、三年の間に、何とかやっぱり白山にも駅が欲しいとか、それから、車両基地にもっと人を使ってほしい等々のことについて要望を始めてきたと。しかし、今の現時点での要望はほとんど聞いてもらえないということで、結果的に、私どもが視察に行きましたら、そのことについてはやはりこれは１０年もそういう計画があったときから、しっかりと地域の要望、思いとか、地域づくりのことをしっかりＪＲに伝えていかないとなかなか聞きませんよというようなアドバイスをいただきました。特にＪＲさんは、基本的には営利企業でございますので、儲かることは率先してやるけれども、地域づくりというのは、やはり地元の人がしっかりと意見を合わせて、申し入れることは申し入れていかないといけないということで、中津川市の皆さんは１５年もあるんだったら、しっかりとそのことについて対処をされたらどうでしょうかというようなアドバイスをいただきましたので、ここでご披露を申し上げるとともに、今回このようなこの会議をつくっていただきまして、ほんとうにありがたく思っております。それから、あとは、リニアの具体的な問題につきましては、このリニアの駅というのは、岐阜県のほうでは東の玄関口というような位置づけでやっていただいて大変ありがたく思っております。ある意味では、また中津川のこの地域から見たときに、やはり北からの玄関口、いわゆる下呂、高山からの流入人口を図るために、今の関係ではなかなかうまくいかない点がいろいろありますので、ぜひこれを機に、道路アクセス問題が少しでも進ませていただければ大変ありがたいと。そういうことになりますと、私どもは歴史的に、いわゆる東濃檜、すばらしい地域資源であります東濃檜だとか木工技術、それから石材、またその加工技術等々ございますので、そういうものを活用した産業振興というのを、何とか寄っていただけるような、寄り道ができるような地域づくりを推進していきたいと思いますので、ぜひ道路アクセスについても課題に上げさせていただきたいと、こんなふうに思います。以上でございます。

【委員長】　　どうもありがとうございました。この議題、論点と視点等の整理についてということでございますが、この資料がこういうふうに出ておりますけれども、次の委員会あたりのところでは、今ご指摘いただいたような点を、こういうことで議論するのが大事だということではなくて、具体的に議論の成果が次回の委員会あたりから問われてくるわけでございまして、そのためには、それまでの間にいろいろと調べていただかなきゃいけないですね。調査をこの委員会の間に進めておっていただかなければいけないわけでございまして、調査を実行していただける事務局作業班の人たちも、今、

後ろで聞いていただいておりますので、それに向けて、こういう調査をやるべきだというようなご提案があれば、この際、この視点・論点の整理ということでお話をいただいたらいいのじゃないかと思うのですが。今、これを拝見しまして、私自身の感触を申し上げますと、中津川市も合併７年目、合併して大中津川市になってから、どういう地域構造に変わったのか、このあたりのところの分析が、お聞きするところではまだ十分にはなされていない。ですからそこらを分析していただく必要があるのじゃないかなと思っております。地域構造といいますのは、私、岐阜県の地方計画の策定委員を務めさせていただいたこともございますし、そういうときに申し上げておるのですが、地域の交流構造というのが大事だと思います。昔からどこにどういう人たちが住んでいるとか、ここの地域はどういう産業が中心であるとかというような分析をもって構造分析と言っておられますが、私は、特に住民の交流、動き、どういうふうに日常生活で、通勤・通学の分析をずっとやってまいりましたが、それだけではなくて、この頃は皆さん、広域に買い物に行ったり、それから友達とつき合ったり、あるいはいろんな社会的な会合に出かけたりしておられますので、人々がどういうふうに動いているかという、その動きの実態、それを私は交流構造と呼んでおりますが、それを把握する必要があると思うんです。特に合併した都市については、従来の市町村、あるいは従来の市町村の中が幾つかの地域に分かれていると思いますが、昔で言えば大字、大きな集落の単位の相互間の交流の強いところ、弱いところがあるかと思います。そういうものを分析しておいて、それが今度、坂本地区にこの新駅ができることによってどう変わるだろうかと。単純に考えましても、今までほとんど中津川の都心に集まってきてほかの地域と連絡をとる、いつも中津川の都心を経由していたというような、１点に集中するような交流構造というのが、ちょっとそれとは違って、都心に寄らないで、坂本地区の駅のある拠点地区に直接つながるというような動きが出てくるのではないかと。そういうようなことを予測していくことが、この地域に与える影響を予測する上で非常に重要ではないかと。そのあたりのところが、今日のこの資料３－１にはちょっとその観点が弱いのではないかと思いまして、そんなこともお調べいただいたらいいのではないかというようなことを思っております。長く話が続きましたけれども、ほかにこのような何かご指摘、あるいはお気づきの点がありましたらお聞かせいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

【委員等】　　駅についてのことについては、いろいろなところで話が出ておりますけれども、車両基地、車両工事を含む内容について、できましたら、次回までの間、大体わかる範囲までの規模等がわかりますと、何とか定住促進とか検討の考え方もできるんじゃないかと思いますので、ぜひそのあたりの公開できる範囲までの調査もしていただけると大変ありがたいと思います。よろしくお願いしたいと思います。

【委員長】　　そうですね。どうもありがとうございました。全く大事な点だと思います。先ほど、熊本の資料の説明で３分の１とおっしゃった。基本的なところが僕はわからないのですけど、どっち

が３分の１なのですか。

【事務局】　　お答え申し上げます。中津川に設置が計画されております車両基地につきましては、延長が２．５キロ、最大幅５００メートル、面積が大体７０ヘクタールと言われております。先ほどご説明申し上げました熊本総合車両基地は大体２０ヘクタール強でございますので、こちらのほうにできるものが３倍大きいということでございます。以上でございます。

【委員長】　　そんな基本的なこともわからない者が話をしておりまして、失礼いたしました。今、委員がご指摘のとおり、車両基地の面積に比例するとも思えないのですが、ただ、どのぐらいの列車本数が入ってきて、いつもどういう点検を受けるのだろうかと。工場機能も併設すると言われておりますが、その工場が、従来の電車と違いまして、とにかく超電導ですから、いわば新しい技術に支えられた工場になるわけですね。そういう意味でいくと、関連事業所なんかの立地も見込まれるのではないかと思うのですが、そういうことを早急に調べる必要があるとかと思います。他に。

【委員等】　　大変申し訳ないのですが、今日初めてこれを提案されて、先ほど粗々と説明を受けたわけですが、その中で常にリニアに関して、それぞれの方の考えであると思いますけれども、まだまとまってはいないと思うのです。今委員長が言われるように提言と言われても。そうした時に、これを持ち帰って再度、もう一度読み返し、そしてその疑問をということで、それぞれの委員会がございますので、何回かやった後に、それをまとめて次回の会議で意見をもらう形が良いと思う。

【委員長】　　それは事務局のほうでお答えいただけますか。

【事務局】　　お答え申し上げます。まず、今回こういった形で基本的な考え方とかそういったものを、まず共通認識を持っていただきまして、この策定委員会の下に幹事会というものを設けさせていただきます。それから、各地域づくりのそれぞれのまちづくりの組織を設置していただいておりまして、それらの代表者でまた集まっていただきます地域委員会、それから女性・若者委員会と、そういったところがございますので、それぞれに今回の策定委員会の議論の結果はしっかり投げかけさせていただいて、それぞれでテーマを設定しましてご議論いただくと。それに基づいていろんな形でそのアイデアをこの幹事会で叩いて、それから策定委員会のほうに上げていくというような形をとってまいりたいと思います。次回のテーマ等につきまして、また後でご説明しますけれども、７月から８月ぐらいのところで第２回をやりたいと思いますけれども、その後にいろんな調査の時間をとらせていただきますので、その間にしっかりとそういった議論を深めていく機会をいろんなところで、地域委員会、それから女性・若者委員会、それから幹事会、そういったところでやっていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【委員長】　　ありがとうございます。ということでございますので、今、委員のご指摘、本当にご

もっともでございますけれども、特にいつまでにというか、次の委員会で全部調査の結論を出していただかなきゃいけないというわけではございませんので、これから委員会を重ねるごとに、さらにこれを調べろ、これはどうなっているんだというような議論が出てきても構わないとは思いますが、そんなに時間的な余裕があるわけではございません。今日のこの資料、膨大な資料はぜひご検討いただいて、そして、今の観点・視点について、できるだけ早く、こういう調査をやってみろとか、こういう見方が必要だぞというご指摘は、事務局、ないしは作業班に届いたほうがいいと思いますので、これは別に次の委員会を待たなくても、幹事会ないしは事務局のほうに委員の方からご指摘いただいていいですね。常時事務局のほうに連絡していただくということで、できるだけお気づきの点をすぐフォローできるようにしたいと思います。

【委員等】　今の委員長のお話なのですが、そのとおりと思いますが、今日できるだけ、私は、皆さんにお願いしたいと思っていますけど、ずっとここのところ、中津川は右肩上がりだったのがずっと下がりつつあるのだから、企業もたくさんありますし、それから観光資源は、東京・大阪のど真ん中で中部山岳をはじめとして一番日本でたくさんあるところです。それからまた、農産物も林産物もたくさんあります。今まで、岐阜県だと、遠いね、岐阜の山奥なんてずっと遠いからということで、勘定に入れてもらえなかったものが、岐阜の中津川には栗きんとんがありますと言うとすぐわかるのです。ここから買いに行ってもらえれば１時間で行けますよというようなことで、今、何よりも大きな希望を持ってやれる日本で一番いい場所になったと私は思っておりますので、リニアが、ＪＲがつくるのに、それにああせよ、こうせよということもあると思いますが、それよりも、駅でとまってもらうお客をどうしてたくさん呼ばないのか、またそこから全国へ出かけて何のために仕事をするのだというようなことの地域づくりも考えてほしいなと。例えば、中津川工業高校はルートにひっかかると思いますけど、だから多分なぶっていないのだと思いますが、どこへ持っていくのか。もっと言うと、中津川市役所だってそうだと思いますし、もっと言えば、中津と恵那と別々に我々がやるのじゃなくて、中津も恵那も、あるいは多治見も土岐も瑞浪も、可児も加茂も下呂も一緒に、この駅を中心に産業の発展を考えていったほうがいいのじゃないかと思えてわくわくしておるわけですけど、注文をつけるだけじゃなくて、それを中心にどうやってこれからやっていくかということを、前向きに、明るく、大きく、ダイナミックにやってほしいなということを思うので、ご提案を申し上げます。以上です。

【委員長】　ありがとうございます。おっしゃるとおり、地域づくりは、ＪＲ東海に頼んだって地域づくりができるわけではございませんので、この推進本部ですとかこの策定委員会の中で、みずからビジョンを定めていかなきゃいけないわけでございますから、今後ともこの委員会の中で議論を深めてもらいたいと思います。ただいまのようなご提案は、大変前向きで役に立つご発言でございますので、ぜひ活発にお願いしたいと思いますが。ただいまのご発言に関連して、何か発言のある方はい

らっしゃいますか。

【副本部長】　　夢を広げるということも大切でありますが、実態はどうなるのかということが、仄聞する話はいっぱい聞いておりますが、こういうところで申し上げることがはばかる部分もあります。車両工場、日本車両が来るという話、どんな按配かなと。浜松の車両基地、これは基地ですので、修理工場。ただ、あそこを見ますと膨大なボルトを使っているのですね。ですから、１，５００人あそこに塗装工とかいろいろおりますが、どの程度の規模の、大体ＪＲさんは僕はわかっておると思うのですね。もうちょっと情報を前広に出してくれるといろんなことが考えやすいと。あるいは、リニアは線路が要らない反面、ガイドウェイに取り付けられたコイル。これから４００キロ近く、往復でとてつもない量が要るわけですが、それについての製造はどこでやるのと。多分ＪＲさんはもう決めておると思うのです。だけど、それが多分もしかしたら中津川かなと思ったり、そうではないのかなとも思ったり、もうちょっと輪郭をＪＲが前広に教えてくれると、皆さんもこんなふうにしていこうと、こういうことになるんじゃないのかなということも思うことであります。もう一つ、定住人口の促進という問題でありますが、やっぱりどこまで行っても、産業があることということが１つ。それからもう一点は、学力レベルが高いまちに人間はやはり住むわけです。トヨタの人たちは岡崎へ住むという状況ですね。ですから、今日、コンサルの皆さん方もいらっしゃいますが、この中津川地域の学力は岐阜県下の中でどんな按配か、あるいは全国とまで言わずに、これからこの地域、皆さんと力を合わせて学力レベルを上げるためにどうするべきかと、こんなことも、リニアと私は密接に関係すると思っております。今日は三菱電機さんもおいででございますが、昨年、伊丹製作所へ視察に参りました折に、リニアのことをお聞きしました。返事が何もなかったんです。何も返事がないということは、相当関係あるのかなと、こんなふうに勝手に思ったわけでありますが、コイルとの関係があるのかなとも、これは私の想像でありますが。もうちょっと要望が前広に、オフィシャル的な形でないと、ひそひそ話は、密室だったらいろいろ私もしゃべれることはありますが、こういう席ですと、もうちょっと前広にならんかなと思うわけです。ちょっと余分なことを申し上げました。ぜひ、学力レベルのことを、これは一、二年かけてコンサルのほうも調べてもらうとありがたいなと、こんなふうに思っています。

【委員長】　　私がつけ加えることはございませんね。ほんとうにそういう調査を、不法行為を図れとは申しませんが、隠されている情報もできるだけ集めていただくように、作業を担当してくれるコンサルタントにはお願いしておきたいと思います。それから、今日は学識委員ということで２人に加わっていただいておりますが、このあたりのところで、何か１つお聞きしていいでしょうか。

【委員等】　　それでは、発言の機会をいただきましたので、２点お話をいたします。１点は、本当にこの会が非常に多くの方が参加をされる形でやられるということが、非常にいいことだなと思って

おります。これからの時代というか、とにかく全市を上げてというか、地域全体、市だけですけど、この地域全体を上げて全員参加でやると。リニアの駅が来ることによって、自分がやっぱり何ができるのかということを考えて、それも実現するという気持ちに一人一人がなれたら、非常にこれは大きな力になるのではないかなと思っておりますので、ここでは非常にボトムアップ的にいろんな声を吸い上げる形になっていますので、こういうやり方が非常にいいなと思っております。それが１点です。２つ目なのですけれども、ビジョンの策定ということで、ついつい２０２７年、１５年後だけを見がちなのですが、それまでの１５年間が実はあります。１５年間経つと、実は決まっていることがあります。全員１５歳年をとります。岐阜県の全体の人口推計でも、県全体では３０万人以上人口が減るという推計になっています。これは変えられないというのは事実なのですね。そういう中で、１５年間をどういうふうにこれに向けて進めていくのかというと、１５年後の絵をかくだけではなくて、１５年間地域を活性化しながらやっていかなければいけない。繰り返しになりますけれども、１５年後の姿ばかり見がちなのですが、それに向けてどういうふうに地域がやっていくのかと。それに向けて、本当に皆さん今、かなり厳しいですよね。そういう中で、この光を見ながらそこに向けて、日々の活性化も達成しながら、１５年後を目指さなくちゃいけないということで、非常に難しいことなのですけれども、その視点をぜひ入れていっていただけるとありがたいなと。

【委員長】　　ありがとうございました。

【委員等】　　私のほうも、１５年後ということを少し考えるのですけれども、実は私は、東海環状自動車道が通った後に、この地域を含めた９市１町の岐阜県内の市町と、あとはそこの中にある工業団地の、実は今日ご出席いただいている企業の方にもご協力いただきまして、ヒアリング調査を行いました。その結果、各市町、同じ高速道路が通った、インターチェンジがあるという状況であっても、かなりその効果というのは温度差がありました。結果的に、通る前に、地元の企業、そして、誘致される企業、もともとある産業というものと連携しながら、インターチェンジの建設を待つ準備を着々と進めている企業と、なかなかその連携がうまくとれなかった市町とでは、かなり通った後の効果が異なるなというのが印象でした。ここの中津川、恵那の企業の方々にヒアリングをしたときに、実は企業の方々は岐阜県を見るというよりは、むしろ東京を見ているということが感じられました。それが他の東海環状自動車道の課題と少し異なる部分なのかなと感じたのですけれども、まさに今回、このリニアというものが通ることによって、高速道路以外に新たな交通網ができる、そして、そこが隣接するという非常に交通的な利点を持っている部分をいかに生かしていくか。今回このところにもあるのですけれども、本当に道路の整備だとか二次整備、ここがうまくいかなければ、ほんと新幹線の駅だけがあって、そこに駐車場だけができてしまうまちになってしまいますので、あと１５年後を見越して着々と準備を進めていく、そして、その際に、ぜひ企業の方々、住民の方々、そして、ここの地域の観光資源という部分を生かして、そういったものを、それぞれのご意見を伺いながら進めてい

くのも大事なんじゃないかと思います。

【委員長】　　ありがとうございました。それでは、他にご発言のある方はいらっしゃいませんか。

【委員等】　　リニアができるということで、いろんな説明を受けておりますけれども、我々の中では、リニアができるということで、まず東京へ遊びに行ってくるということが、遊びに行くなら東京だというような、そんな流れで来ておりますけれども、我々の中にはやっぱり、大事なのは、出ていくことじゃなくて来てもらうこと、こういうことをテーマに、いろんな情報集めをしていこうかなと考えております。やっぱり来てもらってのリニアだと思いますので、そういったところで情報収集をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】　　ありがとうございます。本当におっしゃるとおりですね。東京が近くなる、東京に行きやすくなるということは、自分の身につければそういうところがぴんとくるのですけれども、１つ、忘れないようにしていただきたいのは、東京の首都圏の２，０００万、あるいは１，６００万とかという人たちがこの地域に近くなるということなのですよね。これは、そのうちのちょっとの比率の人が動いてきても非常に大きな効果を持つということで、これで地域おこしをやるんだ、あるいは、こいつで一商売やろうと、この発想が１つ大事だろうと私は思うのです。そのあたりも忘れないようにしていただきたいと思いますね。自分の生活ということだけではなくて。他にどなたか。

【委員等】　　土木関係のことに携わっておるものですから、その辺からお願いしたいのですが、先般、千葉県の浄水場でホルムアルデヒドという有害物質なるものが出たということで、やっぱり東京近辺の方というのは、水に対する安全というのにものすごく興味を持っておられる。昨年、原発があって、放射能の危険性があるときに、そのときにはペットボトルの飲料水を大量に買い込むというふうなことがあると。そういった面で考えると、この地というのは下流域でもないですし、上流域、水資源というのは相当豊富にあるということもあって、それを期待して企業の方もある程度、水源の安定性、そういったものに注目するのではないかなと私は感じてならないのですが、そういった面で、活用できる水資源のほうをもう少し捉えていってみることもいいのではないかなと。それによって、東京に向かってＰＲすることもできるし、やはり住むに当たっての安全、あるいは企業に乗り込んでいただくときの安全、そういったところを注目されるとよろしいのかなと思います。

【委員長】　　ありがとうございます。このリニア新幹線というのは大変新しい技術で、実用レベルでは今回が最初でございますから、ある面では何が出てくるかわからないところがございます。そういうのに柔軟に対応できるような、何を言いたいかといいますと、いわゆる生活環境、環境の要望ということについては、迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるというようなことも大切ではないかと。特に水、今、非常に豊かな資源としての水というものを、それを守っていくということは大事だよと、

そういうご指摘だったかと思います。他にいかがでしょうか。この委員会、普通のいつも中津川市でやっておられる委員会とは違っておりまして、県の方、それから下呂市なんかの方もオブザーバーとして参加いただいておりますが、特に、冒頭のごあいさつでもございましたけれども、この駅は恵那市に非常に近いのですね。恵那市にとっても、立地は確かに中津川市域でございますけれども、非常に影響の大きいところでございまして、恵那市の議論とはお互いに連絡を取り合いながらやっていこうというシステムにしてございます。今日、こういう議論、ずっとお聞きいただいたところを受けまして、恵那市さんが来ておられます。ちょっとご発言いただければと思います。

【委員等】　　失礼いたします。恵那市ですけれども、恵那市の場合は、今、リニア予定駅の、ちょうど南と西側に位置しますので、恵那市の役割という部分では、まず１点は、南からのアクセスということが重要だと考えております。南といいますのは豊田とか新城、こういったところからの誘客誘導のための基盤というものを恵那市としては中心に考えていく必要があるだろうと。特に三河・東美濃の幹線道路の要望というのをずっとしておりますけれども、これが１５年後に開通するかというのは非常に現状では厳しい状況がございますので、現状の国道３６３とか２５７、それから、恵那と豊田のちょうど県境になりますけれども、県道の豊田明智線、こういったものの整備をしていただくことによって、豊田方面からの当リニア駅への誘客を図っていくということが必要であると思っておりますし、もう一点は、西側でございますけれども、現在、恵那と中津の間の１９号の４車線化が着々と本日も進んでおりますけれども、これに加えまして、あと残っております瑞浪と恵那の間、ここの４車線化、瑞浪恵那道路の整備というものを、リニアに併せて何とか整備をしてもらうということが、この玄関口となる部分で重要ではないかと考えております。それから、中央道については、恵那峡サービスエリアをスマートインター化するというようなことも考えて、私ども恵那市としては、西側、南側に絵をかいて、リニアの駅につなげていくということを考えてまいりますけれども、いずれにしましても、これは中津川市さんと一緒に連携して、駅を中心としたまちづくりというのを考えていかないと、恵那市だけが絵にかいてみても、ただの絵になりますので、そういった取り組みでこれからスタートをさせていただきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いをいたします。

【委員長】　　ありがとうございました。私、この会議に先立つ講演をさせていただいたときなんかにも、盛んに国道２５７号のスーパー国道化というのですか、高速自動車道ではないけれども、できるだけ早く走れるような、昔、準高速という言葉を使っていたんですが、そういう道路にして、下呂の温泉とこの新駅を結びつけることが大事だということを盛んにアピールしてきたのですが、国道２５７号というのは、今恵那市さんがご指摘のように、南のほうにも伸びていて、南のほうもこれは重要なのですよね。豊田の産業地帯、今度の平成の大合併で恵那市と豊田市って隣接しちゃったのですよね。そういうことからいくと、これはアクセス道として、産業地帯と、特に新駅というよりも、先ほどからお話が出ている車両基地、研究工場だと思うのですよね。この工場と豊田産業地帯との結び

つきというのは、これは南のほうも早くしなければいけない。これは中央道と東海環状道路があるからいいと、単純にそれだけではなくて、高速道路はわりに大回りに回っているものですから、今お話があったように、国道をスーパー国道化すれば、かえって下道のほうがよく使われるのじゃないかというような直感もいたしました。それで、私に今まで全くなかった視点だなと思っていた次第でございます。他に。

【委員等】　　では、２点発言させていただきます。まず、このメンバーの中で、中津川には中京学院大学という大学がありまして、私も若い先生を二、三名、存じておるわけですけれども、この会議のメンバーに入っておられないというので市の当局にお願いしたいわけですが、優秀な先生もおられますので、ぜひお呼びいただきたい。それがまず第１点。それから、委員長にちょっと。この前の２月のご講演を伺っておりまして、駅名はたしか岐阜東濃駅がいいんじゃないかとおっしゃっていましたけれども、そのお考えは今でもお変わりないでしょうか。以上です。

【委員長】　　前段の件について、事務局のほうから何かお答えはございますか。

【事務局】　　お答え申し上げます。今の委員のほうにご参画というお話でございますけれども、当方で女性・若者委員会の関係で、中京学院大学の学生さんに入っていただいておるというところで、先生も含めてそういったお話もしておるところでございます。専門的に、そこの学部という特性もございまして、今回は私どもの竹内先生と岐阜大学の高木先生、三井先生という形でお願いをしておりますので、地元の考え方としましては、そういった学生さんからお伺いしたいというような形で考えているところでございます。

【委員長】　　それから、駅の名前についてですね。今日、私、慎重に駅の名前を言わないですよね。というのは、この前お話していた後の、やっぱり東濃というのは、どう見ても知名度がありません。全国的に見まして、東濃というのは、この前もお話ししましたけど、岩手県の遠野と間違われるのですね。あっちのほうが有名なのです。柳田国男の有名さにつられて、『遠野物語』ですねというようなものですから。誤解を招くようなのはつまらないと。それで、やっぱり全国的なシェアからいくと、我々、岐阜をよく知っている人は東濃って気軽に言っていますけど、名古屋の人間だって東濃って気がつかない人がいるのですね。ですから、やっぱりそういうことからいくと、東美濃と言うべきかなと実は内心思っているものですから、今日は慎重に東濃駅という名前は言わないようにしたのです。そういうことです。だけど、それは最終的には、名前は、特に地元の市民の方々を中心として、岐阜県の意向を受けながら決めていかれることであって、我々みたいな外の人間というか、学識者が、えいやあと決める性格のものではないと思っておりますので、お考えいただいたほうがいいと思います。岐阜という名前をつけるかどうかというのが、皆さんは経緯をご存じですね。この議論が始まりましたころは、岐阜県知事は梶原知事でしたね。梶原知事は、そんな岐阜なんて名前をつけんでもいいぞ

と。岐阜はそういう細かいことでごちゃごちゃ言わない。だから、東美濃でもいいではないかというようなこと言われたことを記憶しておりますが、今の知事は、この点については全く発言しておられませんので、県のほうとの交渉は必要だと思いますが、最終的には、私は地元の方とＪＲ東海との交渉で決まるものだろうと思っております。他に何かご発言のある方はいらっしゃいませんか。

【委員等】　　リニアにつきましては、整備新幹線というよりも、劇的に産業構造、あるいは経済構造を多分１５年後は変えると多分思われます。そういう中で、先ほど委員長がおっしゃったのですけれども、交流構造の分析、そこを一歩踏み込んで、いわゆる社会の構想というのですかね、例えば十数年前に首都機能移転、非常にわかりやすい社会構想だったわけですけれども、そういう社会構想のようなものを、万が一といいますか、予見という話になるかもしれませんが、ふさわしくないかもしれませんけれども、そういうようなポンチ絵があると、より一歩踏み込んだ何か議論ができるのかなと思います。以上です。

【委員長】　　ありがとうございました。首都機能移転問題は全く消えてしまったわけではないんですね。国土交通省のほうでも担当課はあるのですが、ただ、課の名前は変わっちゃいました。首都機能移転推進課という課の名前はございません。それで、実際にはほとんど消えてしまったかなと思っておりましたら、今度の震災、東日本大震災というよりも、その後の原発災害で首都機能がかなり危なかったですね。計画停電なんかをやったり、それから長い時間停電が続いたり、あの問題、それからもう一つは、内閣の原発問題に対する対応が国民の目に見えてこないということがありました。一瞬、内閣は機能しているのかという不安が出たりしたことがございまして、いわゆる首都機能をバックアップという意味で、東京にばかり首都機能を全部押さえておいてはだめなのではないかと。どこかでバックアップしなければいけないのではないかという議論が、私が所属しております一部の学会なんかでは、大変活発に今議論されるようになりました。また火がついてまいりました。ただ、火がついてきた結果として、逆に昔のように首都機能を、一部とはいいながら、移転させてしまうという。山紫水明の環境のいいところに、新しい分散首都機能を持ってこようではないかというような議論はかえって消えてしまいまして、首都機能をバックアップできるためには、やはり大都市圏でないといけないという話が出てきまして、ですから、名古屋だ大阪だという、そういうところにバックアップ機能を用意しなければいけないという議論はまた出てきておりますが、その議論が起こったからといって、例の東濃に首都をという議論がまた起こってくる気配は全くないというところだと、そういうふうに私は把握しております。そういう状況を踏まえながら、しかし、名古屋に首都機能バックアップということを持たせるときに、それでは名古屋都市圏の中で、この中津川、特にリニア新幹線の名古屋の次の駅を持った地域というのが、どういう役割を担ってくるだろうかという議論はやらなきゃいけないと思ってまして、この点はかなり込み入った、ちょっと屈折した観点でございますので、ここらあたりのところは、担当してくださるコンサルタントの部長とも、私はその問題は後でじっくり

話をするつもりでおります。

【委員等】　　誤解のないように。首都機能移転というのは今わかりやすく少し言っただけでして、例えば企業も、本社機能の移転とか、いろいろ社会構想という部分でちょっと質問をしてみました。

【委員長】　　私は、東京とこの中津川にできる新駅の地域というのが、直結して何か働くきっかけの、あるいは東京から事業所がどんどん出てくるとかという性格のものではなくて、名古屋都市圏の中でその地域がどういう役割を果たすかという見方をしていったほうがいいだろうと、こういう意見を持っているということです。他にご発言はございませんでしょうか。今日は１回目の会議でございますから、あまり突っ込んだ議論はしていただけないか、出てくるのは無理だろうなと思っておりましたが、案に相違して随分突っ込んだご議論をいただきまして、ありがとうございました。こういうのを踏まえて、次回の委員会、その前に幹事会が開かれるだろうと思いますが、幹事会のほうで、今日のご意見を踏まえて作業班のほうで調査していただいて、そして、幹事会で議論していただき、次の委員会では、またこの議論を深めていただくということにしたいと思います。それでは、この議題はこれで終了させていただきますが、よろしゅうございますか。この際、何か言い忘れたということがあれば、全く時間がないわけではございません。

【委員等】　　女性若者委員会ということで今回委員をさせていただいているのですが、アイデア等というような意見というものは、基本的に女性とかはこの問題とかですと、ざっくばらんな意見を取りまとめて、そちらの策定委員会に持ってくるという考え方をしていればよろしいのでしょうか。

【委員長】　　事務局のほうからお答えいただきましょうか。

【事務局】　　実はこの資料４のところで、またその点については詳しくご説明させていただきたいと思っておりますけれども、一応そういった形で、基本的に、先ほど申し上げましたように、いろんなアイデアをいろんな視点で、そういったどんな話をしていくかということ自体もそこでいろんなお話を出していただいて、そこで議論していきたいと考えておりますので、こんなふうにと決めつけたような案は現在持っておりません。以上でございます。

【委員長】　　ということでございます。よろしくお願いいたします。それでは、これはご了承いただくとかというものではございませんので、この３番目の議論はこれで終了させていただきます。それでは、最後の議事でございますが、今後のスケジュールについて、これを事務局からご説明ください。

【事務局】　　それでは、ご説明申し上げます。資料４ということで、議事の策定委員会と地域委員会、女性若者委員会という形で、段が分けて書いてございます表の資料をご覧ください。これらはビ

ジョンの策定スケジュールでございまして、来年秋とされるルート、駅等の詳細位置の公表を睨んだ工程としてございます。一応の目安として、平成２５年７月末ごろビジョン完成という形で書いてございますけれども、基本的には県で取り組んでいただいていますリニア活用戦略に、私どもの意見を盛り込んでいただけるような工程感で進めていければと考えておりますので、７月、８月というところは決めつけたものではございませんので、よろしくお願い申し上げます。それから、年度内に策定委員会を４回程度開催いたしまして、次回には、先ほど委員長からもお話がございましたように、ビジョン策定の関係のいろんな調査、そういったものを、どういったものをやっていくかということについてご検討いただきたいと考えておりますし、そういうことを含めまして、ビジョン策定の課題認識、それから、沿線都市の動向等、そういったものをしっかりとそこへ素案を提出させていただいてご検討いただけたらと考えております。そして、第３回では、調査結果の分析結果をご報告させていただいて、その結果を踏まえた形で方向性を確認させていただくために、第２回と第３回の間は少々お時間をいただきたいと考えております。その間に、今お答え申し上げましたように、地域委員会の皆様、それから女性・若者委員会の皆様と議論を活発化して、そういった忌憚のないご意見を幹事会に出させていただいて、段階ごとにご提案をさせていただきたいと考えております。そして、年度末頃になりますけれども、第４回に大まかな素案を提示させていただいて、それと並行して、地域委員会や女性・若者委員会の最終的なとりまとめ、そういったものを、少し成果品的なものをつくっていただいて、第５回の最終案に盛り込んでいただくようにお願いしてございます。策定委員会の前には幹事会を置かせて、しっかり資料等の中身についても事前調整をさせていただきたいと考えてございます。よろしくお願い申し上げます。そして、推進本部の会議につきましては、第４回及び第６回の策定委員会の頃が節目となると考えてございますので、このあたりで本部会議のほうについては開催したいと考えております。合同、もしくは単独でやるかにつきましては、時期が近づいてまいりましたらご相談をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

【委員長】　　ありがとうございました。この件について何かご質問はございますか。それじゃ、このスケジュール、大体皆さんご承知をいただいたかと思います。よろしいですね。それでは、次回は今年の夏ごろで、全体としては来年夏ごろの完成を目指すと、こういうことですか。それでは、私のほうにお預かりしている議事はこれですべて終了でございます。どうも本当に、先ほども言いましたけれども、熱心なご意見をたくさん出していただきましてありがとうございます。しかも、大体予定どおりに議事が終われるようでございます。どうもご協力ありがとうございました。それでは、事務局へお返しします。

【司会】　　どうもありがとうございました。皆様方には、ビジョンの策定に向けて、ひとつ今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、その他のほうに入らせていただきます。その他の１番、次回の策定委員会の開催について、事務局よりご説明申し上げます。

【事務局】　　それでは、ご説明申し上げます。資料４でご説明申し上げましたように、第２回の策定委員会を７月下旬からお盆前あたりに開催したいと考えております。まだ２カ月でございますが、もう２カ月でございますので、事務局としましては、ちょっとご提案させていただきたいのですが、８月８日の水曜日ぐらいにいかがかと考えておりますが、いかがでございましょうか。水曜日でございます。よろしいですか。

（発言する者あり）

【事務局】　　それでは、また調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【司会】　　それでは、今の件につきましては、また打ち合わせをさせていただいて、皆さんにお知らせをさせていただきます。よろしくお願いいたします。次に、２番目のリニア中央新幹線に関する説明会開催のご案内でございますけれども、事務局からご説明申し上げます。

【事務局】　　平成２４年５月８日付の記者クラブ配付資料をご覧ください。ＪＲ東海と県期成同盟会の共催によりまして、一般を対象とした説明会が６月１３日水曜日１時３０分から、東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホールにて開催されます。先般、委員の皆様にご案内をさせていただいてございますように、ぜひご出席いただきますよう改めてご案内申し上げます。以上でございます。

【司会】　　ご都合がよろしければ、ぜひともご参加をいただければと思います。どうも長時間にわたりご審議いただき、まことにありがとうございました。最初にお願いさせていただきましたように、本日の資料につきましては、議事録を含めましてすべて公開でございます。今後の策定委員会につきましても同様に公開とさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。それでは最後に、まちづくり推進本部の丸山副本部長さんに、閉会のお言葉をいただきたいと思います。お願いいたします。

【副本部長】　　それでは、大変長時間にわたりまして、各界各層皆さん方ご参加いただきましてありがとうございました。次回の会議が大変楽しみな情勢になってきているのかなと、そんなふうに思っております。皆様方、ご多忙の中お時間を割いていただきましたことをお礼申し上げまして、閉会といたします。ありがとうございました。

――　了　――